



~ 13
2935
4







お松

お松
お梅
お菊
お花
お草



連理木上

お梅

栞へそ色でもお那トヤ戸マ水ミ旅リまをとお春ハルの毒ドクさゆをなさる
 まはものトゆらうりお春をいん中ちゆうをききこりきき
 やるお栞シさんごよ友トモ旅リあうお兄あにさんの方かたへ集まつて見みま
 せうトゆき栞へううエおううと成なまよとれうううお春ハルお
 おあんら旅リまをとお春ハルへ入いりては僕わがお栞シはかたはアレ
 まつゆやを旅リへお春ハルお兄あにさんとやアごおませんうね
 栞へッレは僕わがあさゆきお春ハルがどんおんおんごともヤレ
 ち然しかしませんのおお月つき分ぶんううお春ハルおんおんごともヤレ

水みづツレあのおりお春ハルお兄あにさんお春ハルお兄あにさん
 まヨカアくお春ハルお兄あにさんお春ハルお兄あにさん
 まはものトゆらうりお春をいん中ちゆうをききこりきき
 やるお栞シさんごよ友トモ旅リあうお兄あにさんの方かたへ集まつて見みま
 せうトゆき栞へううエおううと成なまよとれうううお春ハルお
 おあんら旅リまをとお春ハルへ入いりては僕わがお栞シはかたはアレ
 まつゆやを旅リへお春ハルお兄あにさんとやアごおませんうね
 栞へッレは僕わがあさゆきお春ハルがどんおんおんごともヤレ
 ち然しかしませんのおお月つき分ぶんううお春ハルおんおんごともヤレ

連理梅五編上

下

はまをけしどご何でござうも若旦那おさ由が寝所
 であらうせんもねとらびしてきねんがござおま
 さいねらうとふひお男おねらうとふひ 漢おしも葉家の方が
 俄ふござうと強がうと「お葉さんく引ちらうと志
 むよとちきる声をさうとさうとねいあうお由さ物ば
 方の二人を点見合せを「ヨヤどうと成のござうと掃へ
 ちねさ移へふく終ておらんち成まうよと二人食忙
 うけ終びうの備身用くとあををぬくも尋る

おねらうと強がうと「ヨヤおやおまうと何処におどござうと
 むよとちきる声をさうとさうとねいあうお由さ物ば
 方の二人を点見合せを「ヨヤどうと成のござうと掃へ
 ちねさ移へふく終ておらんち成まうよと二人食忙
 うけ終びうの備身用くとあををぬくも尋る

ぶか 庭の旁うら 立岡をいしていふいふのでお
 ぶおませうが死んとうちぬ入てうら 四半止をおえ
 清くしまのゆきもあのお娘をおきかとおんあや
 うでぶおまのぶがサトねんぐお梅をお雪の例小
 て。若小娘のちあしをひくふ。きねお兼こし
 由もゆが口流し娘あうらぶ。ままうら 立坂せう
 しうが。うらうら ねんが解らぬと。房二年との深
 心申あ、海く、海小はつるを。今うら 男はくがまう。

是を思ふをあらふと。ききうそあいうあうんが
 小はくごん海中将を推量してを哀をいふいふ。福
 それトや、あのお娘が兼さんとやうでおまさん
 へんあまやとうしては方のお兼へ兼うこのでま
 ませう福へ金体愛は列座のゆきをせんし
 在く房さん小兼うとあうら 兼うこのでま
 おませうう解りません福へまや何ゆいせお松
 ぶんのあまのうら 彼方かあゆいせおま



うか由情がうせつうあざうお娘をうせても死
 てもおまはるまはごろうよよひがが一まごひ信
 男小変らしてを私あうは死すも志まらまは信を
 新しう小生ておまはるははう共うも外小増花をさ
 ぶつてさく死んご志まらまはううと心ひまはらう
 おまおまはるの力を信あおまら面へ對して志まら
 らしを並べあうとすしてをまらうもく物しんや
 新し心の中は情はやうが信つ死すしから般の日の川

の清姫のやうお娘すして死んご志まらまはらう
 つ死すはうも志まらまはらうしうまらと我が
 日々がう懼し心ひまはらうあうらお娘まら
 ぶゆらお娘であうまはらうトこががのうくおはまら
 とうくおまのあうら信信おは。自惚と物る幽懐
 も。然れおまのあうら信信。さうでも集和う年
 つき。養育がうさく悪うら信信。娘は七去
 一去ゆら。うあむ信信は信信と。お娘を

春色連理梅卷之十四

江戸 梅暮里谷茂作

第廿七回

お梅の泣顔を忍んで由と御八様う。一ツヤ泣のうと
 一このご又序の密り園（お梅）もはれごせ梅（お梅）ハハ私（お梅）や
 ヤとせ園（お梅）もはれごせ梅（お梅）ハハ私（お梅）や
 由と梅中をうり出して居（お梅）うう（お梅）がま（お梅）ま（お梅）備（お梅）向（お梅）去
 やうり泣（お梅）由（お梅）と御（お梅）八（お梅）様（お梅）の合（お梅）点（お梅）目（お梅）う（お梅）ば（お梅）ハハ私（お梅）と（お梅）ら（お梅）由（お梅）情（お梅）が解（お梅）



お兼さんを無理水何んあてん成す
 のとらさおまを(由)うとやこのと
 先刑の一案を立証しこのら及理とく
 して成すをさるやアお兼ッラ
 てある席の通積のお兼さんどア
 そまもあつりま(由)總々
 お松さんうと成す(由)ハテナそれトヤ
 お兼も成す(由)ハイそまも成す

成すとのとまを(由)その席をまぐら
 とあヨリあつり(由)何しりお兼を
 あり何もを成す(由)成す(由)成す
 ぐらと妻を成す(由)成す(由)成す
 成す(由)成す(由)成す(由)成す
 成す(由)成す(由)成す(由)成す
 のとらさ何のおも(由)成す(由)成す
 まア志を(由)成す(由)成す(由)成す

うと侍くち下よ由へ形しておるうと子く仕舞糸
 へお梅へつそ色ざらておと何中でお梅を耳まで
 赤くして筆印を後る者ぢウ。グチヤリく。○ 後方
 の一ふお若夫婦を教くお松が汁ひあく土着の
 二階の長持より出しくきつる結布の夜も梅元
 小を梅元大を授く。小結羅をうけくる者お小
 子に教大梅小。葛盆と漆角の湯のそを洗おき。
 利体好の好燈ある。精馬の藁器の燈心を筆法先

あく梅元おの筆子梅。焼物をあつて側へ並
 まる。お若お若お若お若お若。扇風紙
 づらうと直也。お西梅元より出しく好。何と何
 櫃がさう向ひ。梅あつてと形と形。お雪お雪お雪
 何りきき。扇二糸の面を見つ先おがら。梅元
 香こも香をひそおく。一見さんお若さんお若
 と一生お若お若お若お若お若。お若お若お若
 何りや。お若お若お若お若。お若お若お若。

おうぎらうく異を工成使祿年あうあのお前ご
 けねねくううおを若白髪くおんくおる
 多ねトきらておをいさもこれ 香(かん) 実西おそのおぼしめし
 あう是ままぐの通うごめとお兼さんとも中よく
 しくおげくくら中まーあトりのおおがのいさぢい 香(かん) 何
 をいふかと思つぱつまらあ心那方のしりあうむむ
 けし〜念お無さんあよ聖師のる〜あごうらて
 おううらお兼まぐの信をきく〜こがゆらてふら

つりひ切〜う〜そは舞でおくおのまよそと
 とうら是うういもうお内美一息をう〜うううさ
 せ覚え〜て居る香へあ〜あのおんを盛〜うおぢ
 おまうはぐねお兼さん〜と〜お〜あうあゆ〜
 お前ら兼ま〜〜りぬ成ち〜やそら〜か兼お海
 あゆるがおぢおま〜〜う〜沖今おぬ〜を志づ
 う〜を放さ〜い思〜おま〜よそれお私の方へ
 お出〜てううゆら〜をお控ら兼ま〜〜て〜も私か

道天抄

ばあちとや小ざらたうり〜〜密を〜〜おるが旦那
 ても此身あ〜のござらぬが 是れはばあち由りぬようそれとあ〜あつら
 よしん不忌於か解く〜あが解き筋をお免〜とちをせうとを
 まらふ〜ぬを奴トやア元村めて十一兩五分二朱とりぬ
 金の二面の足朱ともも移〜と道を今往〜とらふとぬ
 〴〵知がは兵尾お何〜とて此も此身免〜とらふとぬ
 〴〵納朱とぬ〜金の〴〵お娘を移〜とらふとぬ
 巴のあおを理をゆ〜る免〜
は海お〜とらふとぬか様お〜とらふとぬ
 免〜とらふとぬか様お〜とらふとぬ

お梅をよみお〜とらふとぬ お梅お〜とらふとぬ
 遠娘い〜とらふとぬは極小形のおき〜とらふとぬ
 〴〵銀のよ〜とらふとぬらう〜とらふとぬ
 おぢおま〜とらふとぬ代さんの中〜とらふとぬ
 もお役小〜とらふとぬは〜とらふとぬ
 〴〵お〜とらふとぬは〜とらふとぬ
 将が羽場を致〜とらふとぬを〜とらふとぬ
 ま〜とらふとぬ皆月〜とらふとぬも〜とらふとぬ



連理梅丸紛中

暇も暇も小化志を込めて一まてをやらし
 子分を召しを返りしはうら小就の口から中を
 わからしありはぐどぶおまきと分ち候を重苦を申
 ても誰分孝初お音痛をうて異まうと候う候も
 全候はうてまうてヤレ候し中においするもあくま
 小はた小あうまうと候がまきとんくうと中ふり
 之候が持病とあうまうて自由小體がはくまをん
 と候あも私か抱ひまうても湯をひする酒でもら

もはれもまきとんくうをい候しと候と
 と候はうら候と一まあうらまをん
 ても候しと候とや何う候し候と候と
 世候は候し候し候し候し候し候し
 揚く候し候し候し候し候し候し
 と候し候し候し候し候し候し
 と候し候し候し候し候し候し
 何とも候し候し候し候し候し

重理海士録中

春色連理梅卷之十五

江戸梅暮里谷我作



第廿九齣

幽々きんきん吉小きちこゆるといふ。織オリ江エ利リ新ニ家カのうら占ウラととて憂うれ
 するといふ。後うしろよりらるるのゆりゆり。くかんるせんあんが
 塞さい路ろがうまんねおとけいふたてり。彼かの路ろ六む小こ儀ぎととて
 か梅うめ親おや不ふかこ苗な慈じ点てんいいらるせんと心こころみみととららい
 地ちぬぬいいのの下した女おんながが門かど口くちより「か梅うめさんさんとと若わ旦たん那な

江戸梅暮里谷我作

毒くししとてま異あてんおざおまをさるとど先方結
 中らあまう世海跡の履うぬよいお物を掃ぬふあさ
 見くしる後文をさし入まうて強あどのよう備後ま
 しこそ結金ゆく御申より將を無邪を引くま
 志く分るもあく癩瘡を治ひまうて亡き
 去の免のゆその前より私か長い百の暇病をてり
 在まふ短くた振る後跡のちり結入多ゆ考るて後
 し能く家も御交も作もてりて口地面内一後

まし〜〜が病もよりとぬ能ふの仕合せあつて
 まうたゆゆあ多をりよりやて由〜由の扱は後〜あ
 といふりうち〜〜のでもあふのふを後ふおれをお
 云でい即てお毒の毒であつてあふはアノお梅さん
 寛ふ葉和くと後とのゆ孝行を後をお梅さん
 おま〜のお幸海と〜〜のゆお梅さんか吾と〜〜ま
 一休おま〜のお出生〜〜お梅さんおざおま
 私ハ〜〜口為地の物生〜〜おざお〜〜後〜〜



連理梅五錦下

い海くくかハイ遠海ハ何あ〜形ら極あひ方くらが程
 言ふ程りせす〜てねトハひらけらるをきつて〜アレハ海さん
 と程りハ名程がハ程ト〜ヨカ〜ヲヤと程でハ〜
 そのハ海申由〜ハ〜おきくさんま〜ハ〜海さんハ何あも
 海〜をせな〜く〜ハ〜又由〜を程ト〜ヤアハ程ト〜あひ
 程〜ト〜きのあ〜を〜〜〜〜〜由〜ハ〜極り〜〜〜
 くら〜がきく〜んが程を程〜〜〜〜も程程〜あらの程
 あ〜が〜がきく〜さんおきく〜何〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

海さんのきのめの口よ〜ハ〜も程〜〜〜ハ〜程ト〜あひ
 ト〜ア〜程〜が程〜が直〜を〜〜〜〜の〜程〜も〜あ〜
 あ〜〜〜が〜〜〜海さん〜が〜程〜を〜程〜〜〜程〜
 程〜程〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 かん〜程〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 あ〜〜程〜が程〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 程〜〜〜〜程〜程〜の〜程〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 程〜〜〜〜程〜程〜の〜程〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 程〜〜〜〜程〜程〜の〜程〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

由ハラとぞご己の啓定どり毫も違ひはしき
 心とせ初甲斐がゆるといふは初甲斐何れに
 かきと一あふ連て来るくらゐも悪うりか申よ
 くしとて是れは是れは母さんかまゝさんも
 ままはがゆふ所は是れは是れは是れは是れは
 産の面斜をそくきんか是れは是れは是れは
 自分おふふかうせ中ません母一イ子ゆと
 ばしとて是れは是れは是れは是れは是れは

痛さへおえ持ら申す申すは有がととどんと
 ぶふふとては是れは是れは是れは是れは
 をしとては是れは是れは是れは是れは
 うしとては是れは是れは是れは是れは
 ましとては是れは是れは是れは是れは
 ましとては是れは是れは是れは是れは
 心とては是れは是れは是れは是れは
 ぐくは是れは是れは是れは是れは

魚子長年町

下五段大町